



決算説明会

平成21年3月期 (第27期)

平成21年 5月 29日(金)

【4570】

株式会社 免疫生物研究所

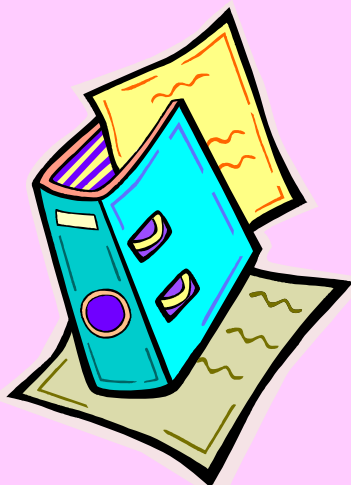
代表取締役社長 清藤 勉



決算概要・経営方針

平成21年3月期 (第27期)

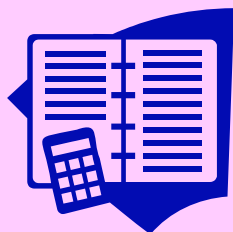
1. 決算内容について



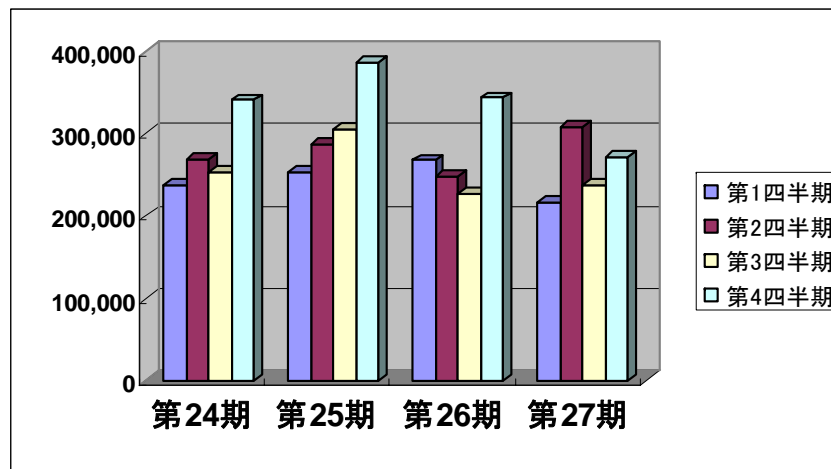


平成21年3月期(第27期)決算実績

単位:千円	H20年3月期 (第26期)	H21年3月期 (第27期)	前期比増減	主な要因
売上高	1,288,914	1,036,006	▲ 252,908 ▲ 19.6%	・アステラス製薬のマイルストーン売上減 ・試薬関連受託サービス(下期激減)
営業利益	▲ 210,367	▲ 382,483	▲ 172,116 -	・売上減少 ・アズノン販売活動
経常利益	▲ 208,417	▲ 389,205	▲ 180,788 -	・円高による為替差損
当期純利益	▲ 236,162	▲ 496,818	▲ 260,656 -	・投資有価証券の減損 ・棚卸資産の評価損 ・固定資産の売却損



各期の四半期毎の
売上推移



平成21年3月期総括

■ 【研究用試薬関連事業】

売上高: 563,156千円(対前年比8.2%減)

- 業界の置かれている環境は継続して厳しい 減収へ
- 新製品36品目(キット10, 抗体24, その他2)

■ 【実験動物関連事業】

売上高: 359,351千円(同1.2%減)

- 製薬企業再編の影響あるも疾患モデル動物需要が回復傾向 ほぼ横ばい
- 初の自社製品 (NCヘアレスマウス) を販売開始

■ 【医薬関連事業】

売上高: 109,605千円(同64.8%減)

- 抗ヒトオステオポンチン抗体 (2K1)
第 相臨床試験は未開始でマイルストーン収入は無し

■ 【その他事業】

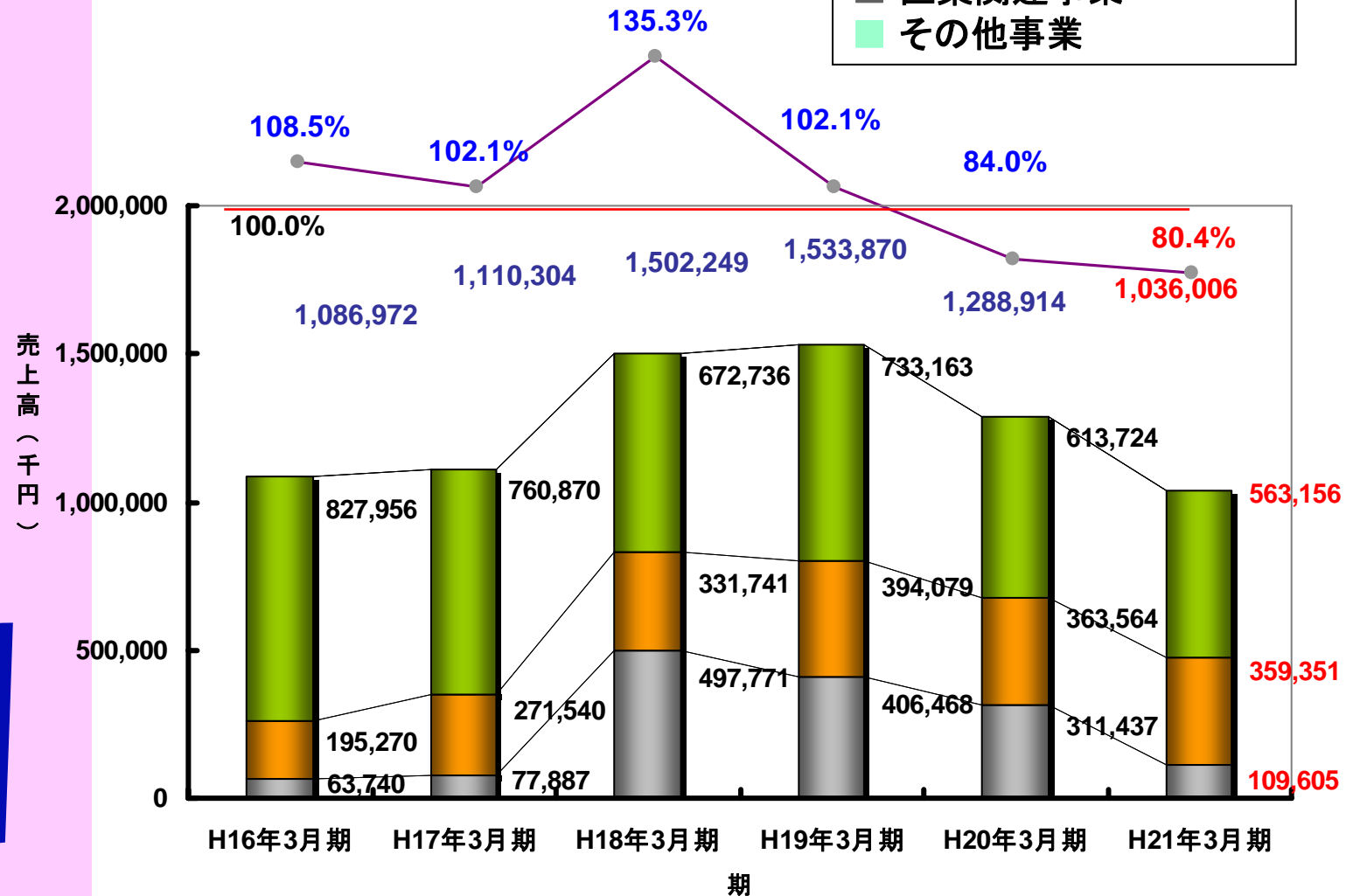
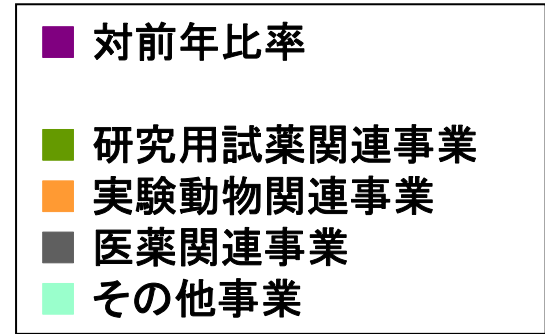
売上高: 3,892千円(前年は188千円)

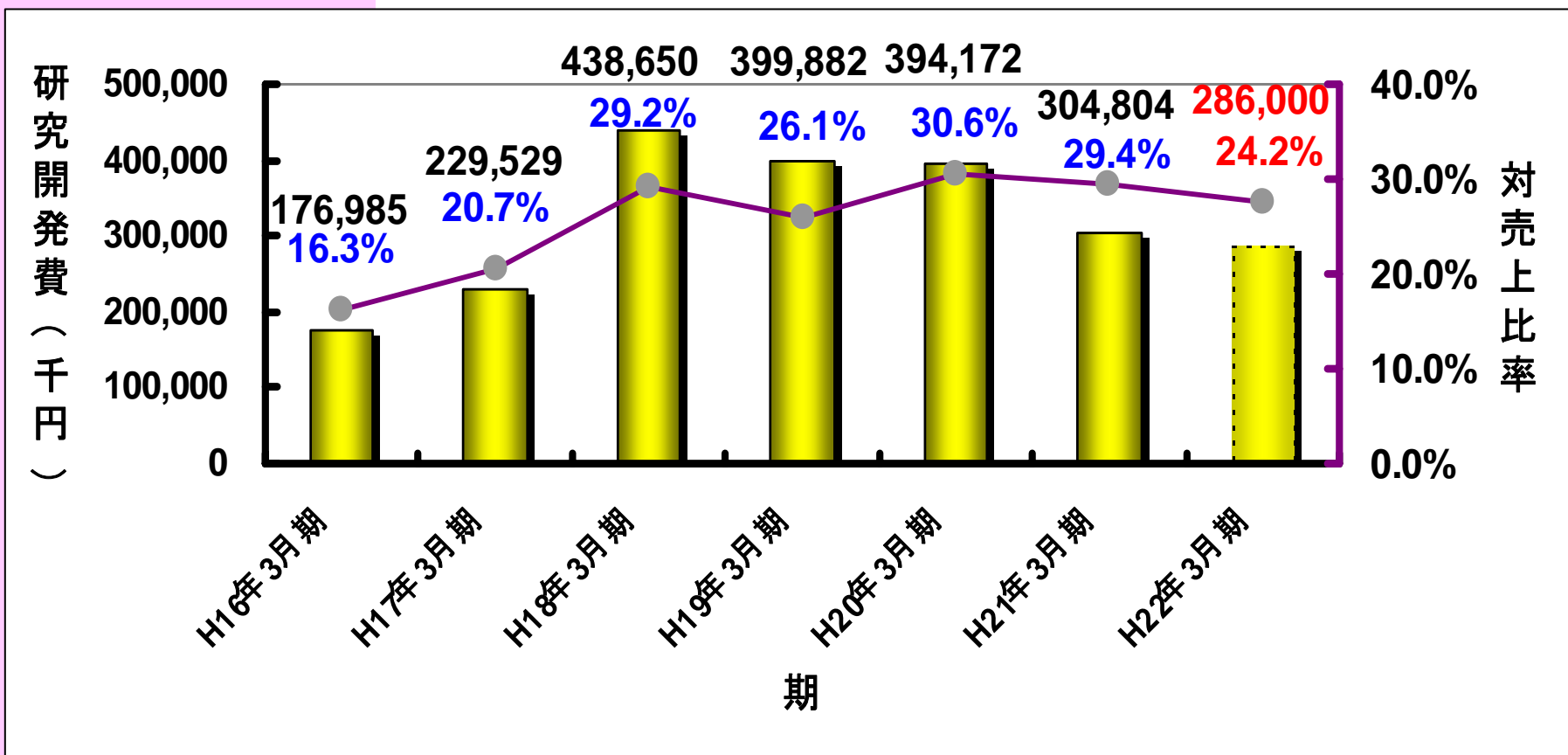
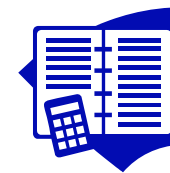
- クレアチン飲料水のサンプルの配布等を中心に販売促進活動





売上高推移





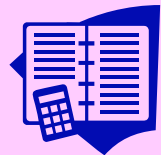


貸借対照表

(千円)

	平成21年 3月末	平成20年 3月末	増減額		平成21年 3月末	平成20年 3月末	増減額
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	799,191	1,330,859	▲ 531,667	流動負債	155,796	182,065	▲ 26,269
現金及び預金	137,299	312,242	▲ 174,942				
固定資産	1,812,565	1,832,241	▲ 19,675	固定負債	70,862	89,015	▲ 18,153
有形固定資産	1,281,543	1,376,865	▲ 95,321	負債合計	226,658	271,081	▲ 44,422
無形固定資産	125,337	64,704	60,633	(純資産の部)			
投資その他の資産	405,684	390,671	15,012	資本金	1,571,810	1,571,810	—
				資本剰余金	1,416,578	1,416,578	—
				利益剰余金	▲ 591,172	▲ 94,353	▲ 496,818
				自己株式	▲ 4	—	▲ 4
				評価・換算差額等	▲ 12,114	▲ 2,015	▲ 10,098
				純資産合計	2,385,097	2,892,018	▲ 506,921
資産合計	2,611,756	3,163,100	▲ 551,343	負債・純資産合計	2,611,756	3,163,100	▲ 551,343

キャッシュ・フロー



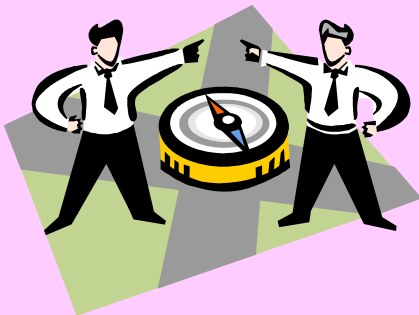
(千円)

	H20年3月期 (第26期)	H21年3月期 (第27期)	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	▲ 377,284	35,160	<ul style="list-style-type: none"> ・売掛債権の減少 ・減価償却費の減少 ・評価損の計上
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 395,335	▲ 215,245	<ul style="list-style-type: none"> ・新システムの構築 ・固定資産の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 15,470	▲ 21,026	<ul style="list-style-type: none"> ・借入金の返済
現金及び現金同等 物の期末残高	500,557	295,108	



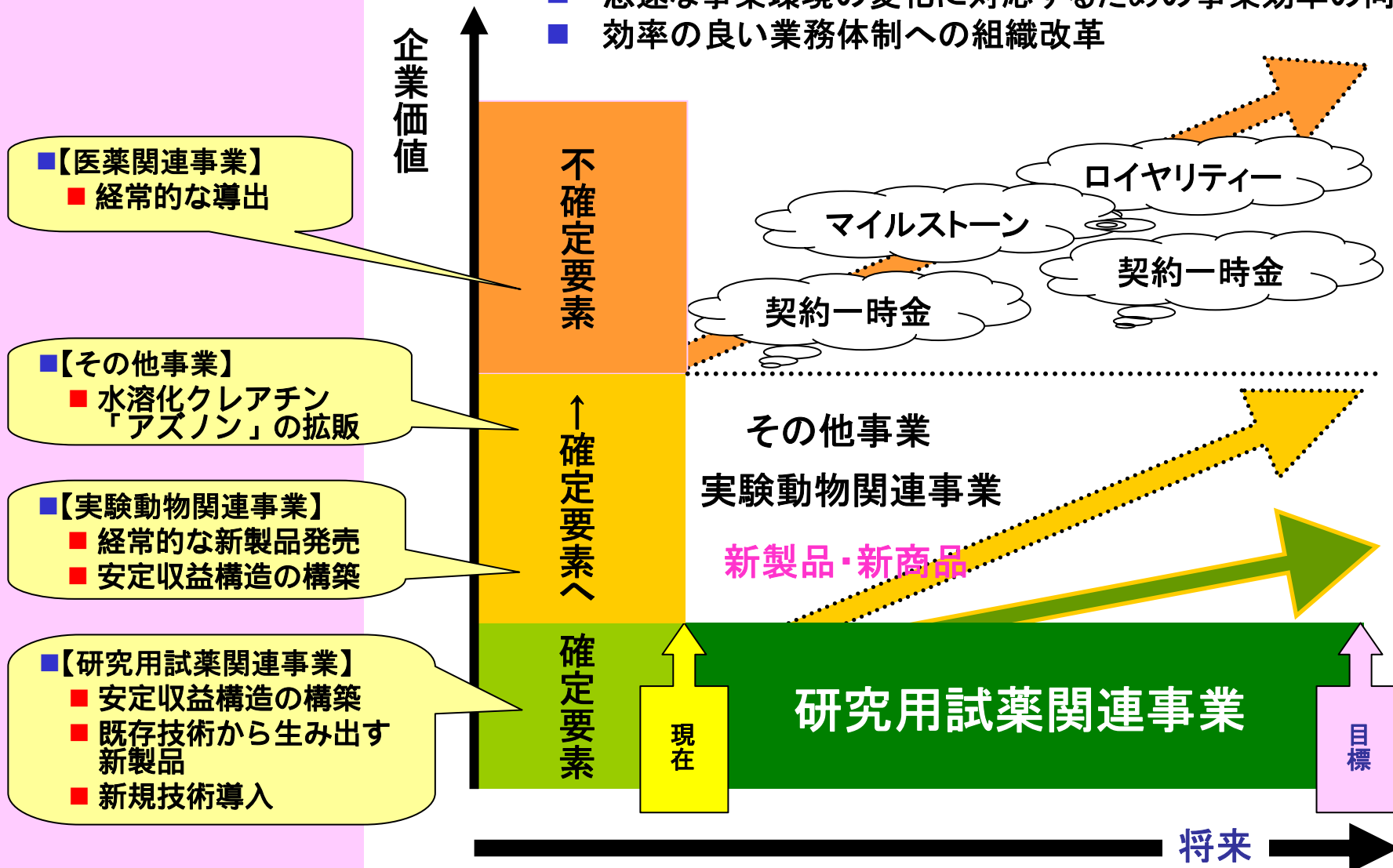
決算概要・経営方針

2. 経営方針および計画について



主要な経営課題

- 急速な事業環境の変化に対応するための事業効率の向上
- 効率の良い業務体制への組織改革





【研究用試薬関連事業】

■ パイプラインの特化

■ アルツハイマー病関連試薬

- APPおよびA β タンパク質周辺の抗体および測定キットのフルライン整備
- 「アルツハイマー病研究試薬」といえば「IBL」、を目指す

■ がんと炎症分野

- 診断につながる新製品(抗体・測定キット)

■ 糖尿病や循環器病などの代謝性疾患

- 新規診断薬候補 (Leptin, Angptl-3, -4, Galectin-3, Tenascin-C, など)

■ 新規タンパク質の生産

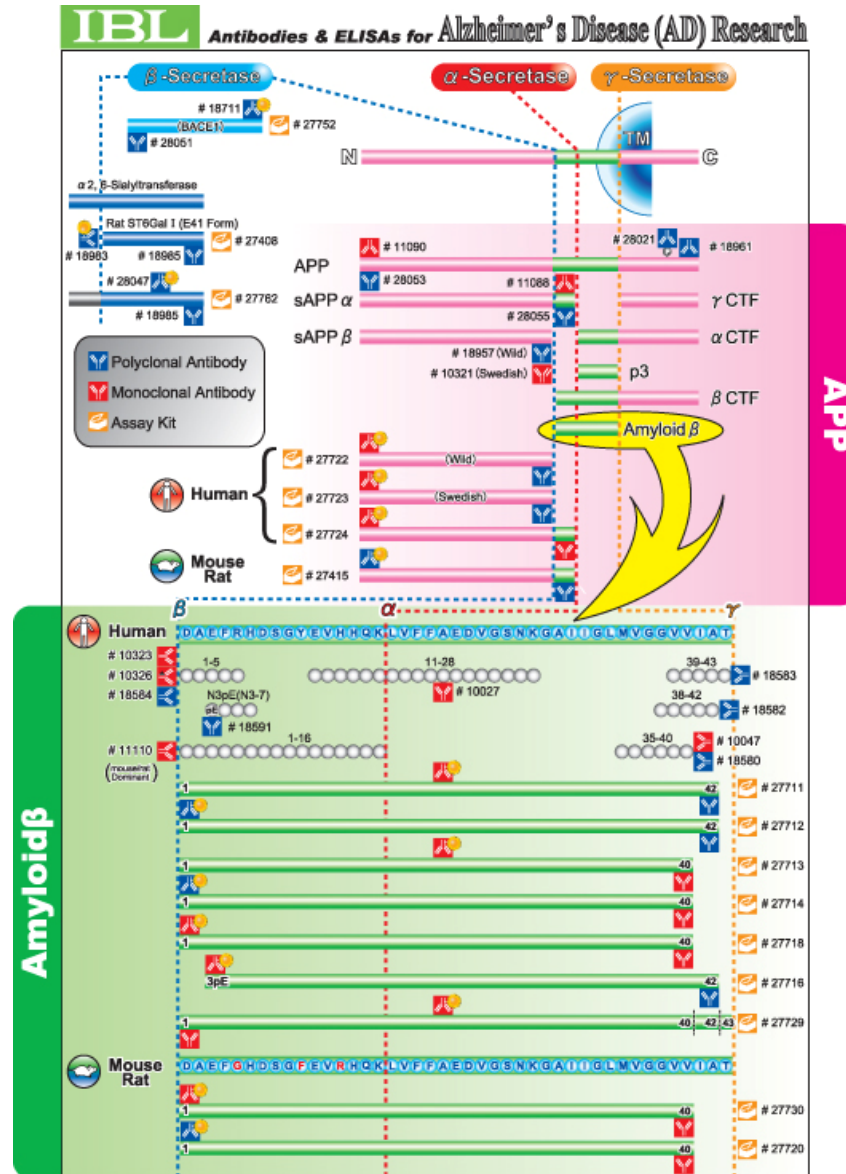
- カイコの繭中でのタンパク質発現を利用した新規生産技術を応用した製品の開発および販売



「アルツハイマー病の研究試薬」といえば「IBL」



アルツハイマー病関連試薬



開発中

- アミロイド β 関連の測定キット、3種類
- APP関連の測定キット、7種類
- その他関連の測定キット、3種類

NEDO Project

アルツハイマー病総合診断体系実用化プロジェクト:
根本治療の実現に向けて(NEDO)(2007-2011)

■ 研究目的

- 体液バイオマーカー(生化学マーカー)の検証、実用化の加速
- 画像・生化学診断を融合したAD総合診断体系の実用化
- AD、MCI診断マーカーに関する技術開発



■ 研究成果

- Amyloid (N3pE-40) ELISA Kitの製品化
- A_β42の種々の部位に対する抗体作製
- QCMによるApoE4測定法の開発検討



【実験動物関連事業】

- 米国Taconic Farms, Inc.の新しい疾患モデル動物 (KOマウス)の拡販
 - ノックアウトリポジトリー
- 自社開発品第1号のNCヘアレスマウスの拡販
- パイプラインの増加
 - 【中枢神経系領域】
 - PS2 Tgマウス
(アルツハイマー型認知症モデルマウス)
⇒ 販売開始予定(平成21年8月)
 - アルツハイマー型認知症関連Tgマウス
⇒ 開発中
 - 【炎症免疫領域】
 - 関節炎モデルマウス
⇒ 農林水産省に申請済み、販売準備中
 - ヒトOsteopontin N-Half ノックインマウス
⇒ 開発中
- 受託サービスとのシナジー効果
 - 三笠研究所の受託サービスでの有効活用
 - 販売マウスの飼育、繁殖、その他保管サービスなど

PS2 遺伝子改変マウス

- 東京大学らが開発した新規のアルツハイマー病モデルマウスであり、国内の独占的な繁殖および販売を行う権利を取得
- 既にTaconic Farms, Incより輸入販売しているTg2576と掛け合わせることにより、5-6倍の速さでアルツハイマー病の病理学的特徴である脳内での老人斑が認められる
- 農林水産省より販売許可取得。平成21年8月より販売開始予定
- 販売計画
 - 既にTaconic Farms, Incより輸入販売しているTg2576の1/3をTg2576とPS2の掛け合わせ需要に転換させ、その分の売り上げ増を狙う
 - 5年後ピーク時で1億円/年の売上を計画

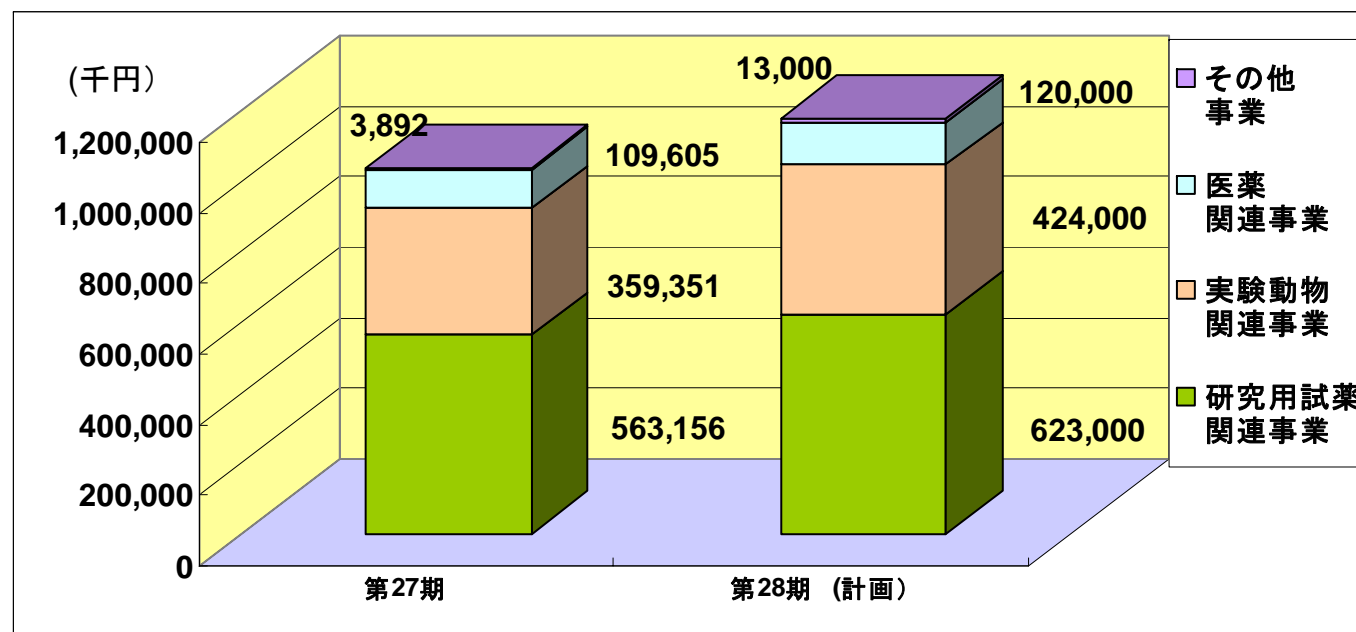
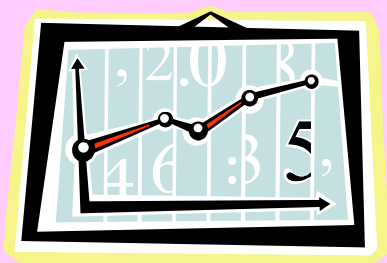


- 抗オステオポンチン抗体
 - 関節リウマチ治療薬
 - Phase I/II: 臨床試験を実施中 (アステラス製薬)
 - 診断薬
 - 診断薬として必要なデータを収集中 (診断薬メーカー)
- 抗アミロイドβ抗体
 - アルツハイマー型認知症治療薬
 - ヒト化抗体研究開発中 (Intellect Neurosciences)
- CCL8測定(移植片対宿主病)
 - 診断薬 (札幌医科大学との共同研究)
 - ライセンスアウトを計画
- 悪性中皮腫(アスベスト中皮腫)
 - 診断薬 (順天堂大学 医学部)
 - 研究型検診を実施中
 - 体内診断薬 (複数の大学医学部)
- その他
 - がん治療薬
 - 受容体を中心に数品目、研究開発中
 - 免疫関連診断薬・治療薬
 - 研究開発中



第28期売上計画

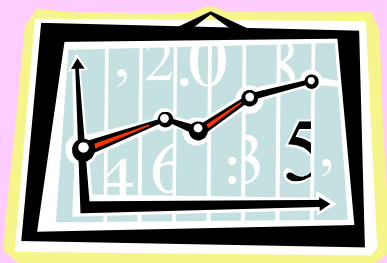
(千円)	第27期	第28期 (計画)	対前年比
	平成21年3月期	平成22年3月期	
研究用試薬関連事業	563,156	623,000	110.6%
実験動物関連事業	359,351	424,000	118.0%
医薬関連事業	109,605	120,000	109.5%
その他事業	3,892	13,000	334.0%
合計	1,036,006	1,180,000	113.9%



業績予想

(千円)

	H21年3月期 (第27期)	H22年3月期 (第28期) 予想	前期比 増減	主な要因
売上高	1,036,006	1,180,000	+ 143,993 + 13.9%	・営業力強化 ・新製品投入
営業利益	▲ 382,483	▲ 145,000	237,483 -	・人件費抑制 ・減価償却費減少
経常利益	▲ 389,205	▲ 150,000	239,205 -	・内部統制構築コスト減 ・アズノン販促経費軽減
当期純利益	▲ 496,818	▲ 155,000	341,818 -	・減損による損失の軽減



研究用試薬関連事業及び実験動物関連事業が、引き続き厳しい環境にあることに加え、通期業績予想を鑑み、期末配当は無配を計画しております。



経営理念

「抗体」を通じて、
世界で難病に苦しむ人々が、
1日も早く、病気を克服し、
明るく豊かな暮らしを営めるよう
社会に貢献いたします。

注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。